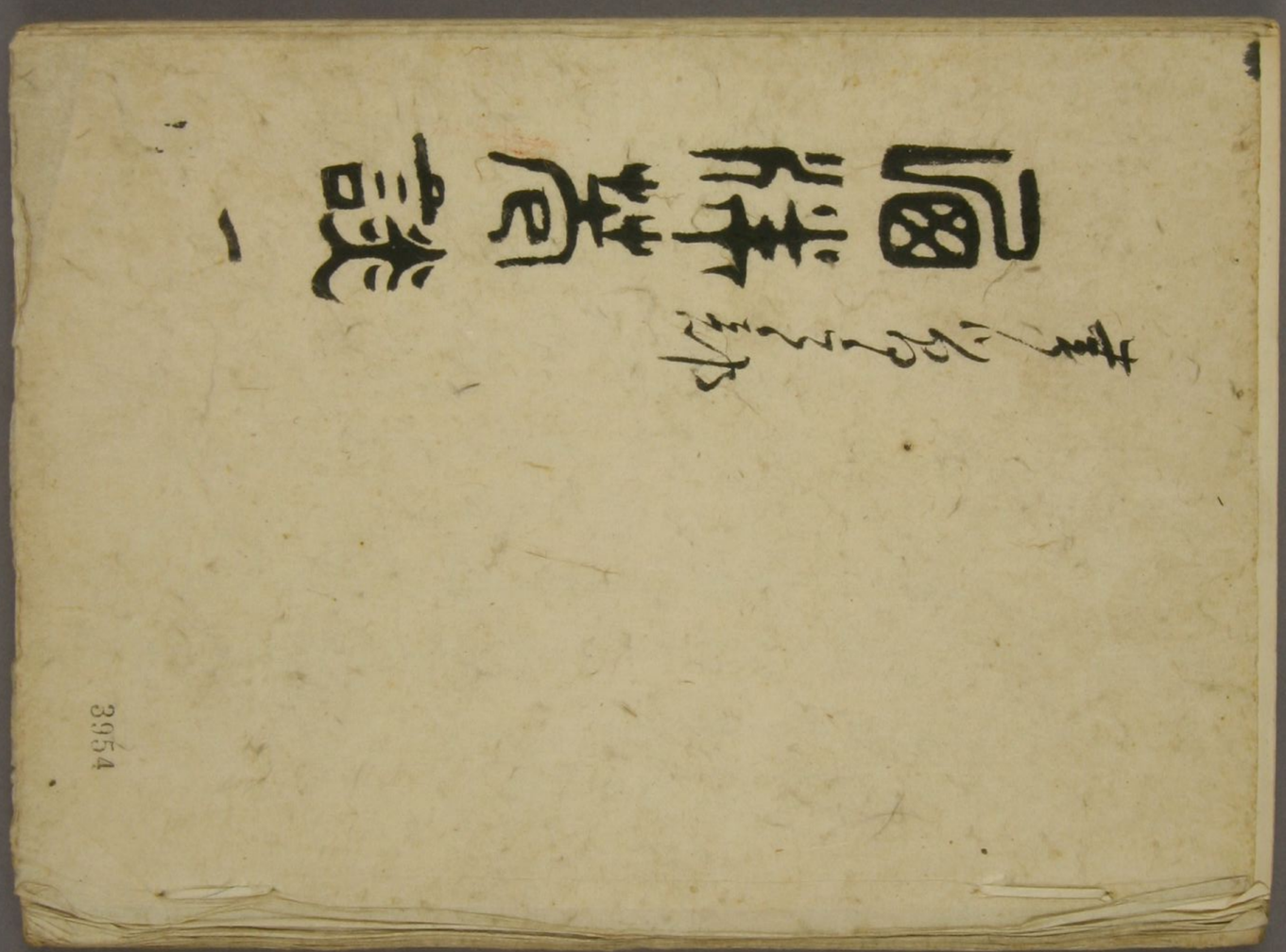


3954

414
A 75
1

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

大星和七郎
森五右衛門
黒沢右京
松山隆助
森山繁之助
有馬笠物
蓮田市荒

以下名大臣之也

大関和七郎
山口辰之介
森山繁之介
○杉山弥一郎
鯉渕要人
広木松之介
稲田重蔵
増子金八
黒沢忠三郎
海後磋磯之介
○蓮田市五郎
○有村次左衛門

佐野は下首之事ノ之処深手におゐて朱五人八代洲川
岸ニて自害ニ及余も深手にて死ス者多し生彦根方即死大人
手負十七人供頭日下部三郎右衛門首を見田治右衛門持帰りと見
ユ者十三人之内一人ハ死ス存命之者ハ生きて帰りし諸家へ出ル又ハ自
害ス之人数十三人とおもへりしかしても名前未知ル全て
之者逃去りし者ハ存りし百姓と

以下闘書

列候ゟ目附ヲ集合ヲ生きて居るとも見定メかし相知リ
委細万事外聞ニ在ル忠臣 并伴侍従衛士共
近来水戸家中ニ而これ有と云三百人余り浪人外山ニ
籠りて候様之の相談ニ及ひ候而小普請組水戸殿
飛之兵ニて周りニ而共ニて振并伴侍衛士ニ出て来ル

例之多人数死亡之為し
七人之内細川越中守様
至四人余果ら石原吉之
り従僕ら之通

右侍屋敷姓名左之通

大島和七郎　赤松五兵衛
依田弥一右衛門　山口辰之助
関　彩之助　松山源五郎
沼本杉之助　赤松山蟹之助
　　赤穂浪士

蟹澗要人　稲田重義　江海三之助
岡部三十郎　蓮田五郎
彦根藩中生前ら懇ケ而ら十七人之内ら件来ら切腹仰
郭中生前ら懇ケ而ら件来ら御手当ら

三月二日赤穂ら御使者ら御引渡ら
検使ら役上已ら為ら在筑前守
勤ら為ら多数ら表ら門ら
通ら尾州様ら通ら
通ら為ら又ら阿部豊後守ら

斗り頭巾と無紋の傘ニ太刀ニて下座いたし候侍武鑑を見候
ら供ニ声も右何れも下駄傘打捨先供へ郷二人ニ仕掛り
抜切致し候内ニ駕籠之左右より声を掛一同ニ斬付ニ付
雪中ニ候得共至て寒く候ニ付井伊様の供いづれも笠桐油を着し
かゞら共抜連候得共何分ニも切結れ兼候處ニ取たろく
二三人手負ひ駕籠ニ取懸り切伏られ其余を打捨て上下
御近井伊家来五人ニ而大勢を相手ニ切結ひ候方も
一面ニ切結ひ候方いづれも十分ニ手負候得共雪中
大勢ニ而たて切ニ相成三人共ニ相果候
右之内ニ而駕籠近く寄候ニ付捉之小
御駕籠近く寄り打捨て候も右通り桔梗之者同様
内供天下切込候様子ニ而手負有之又者逃去り候
大男壱人ニ而長刀ヲ以駕籠へ上段ニ切込たる
無紋之者御駕籠ニ桐油通し御首を討取
ニ候ニ付上ゟ声を掛ケ候様子之由
御駕籠之脇ニ相詰候者も皆深手ニ而
手負ニ而逃去り候様子同供頭三名も相果候
なんとする処何やら相手方之者ニ切付倒し
御胴を突き太刀ニ而切付首を打候大男長刀を持て
実ニ無念と申たれども主人之首を土足ニ而踏候由
寄〇之

三月廿日

一代御目見以下之人ニ而一同ニ御役被仰付候ニ付御礼
登ニ而者無之候得共御礼登之節ニ限り麻上下着用ニ而
登城之事

一同役之内病気ニ而引込居候者ニ而も御礼登之節ハ
麻上下着用ニ而登城之事

一此度之御用掛ニ付御役料之儀ハ
左之通

一金百両ツヽ　蓮田市右衛門
一金五拾両ツヽ　横山猪一郎
一金三拾両ツヽ　メ六人

佐世伴之助　黒坂太一郎
神原順助　大関和七郎

右之外御勘定之内
細川越中守様ニ而
是ハ伊賀之守御方ニ而御勘定ニ而
ニ而大男ニ而御座候

風説書

御目見以下之者ニ而御取扱ニ而
代御免之人ハ例之月数
ニ而

又

代御免之人　横山猪一郎
御手当之内ニ而
ニ而

細川越中守様御勘定之人
逸ニ而御免
龍之口ニ而
達而御取扱之人

細川越中守様御勘定之人　生駒播磨守
御手当之内ニ而　細川越中守
ニ而　散髪ニ而御役御免
ニ而

一三度御呼出ニ而
一三度御呼出ニ而
一大名ニ而ハ阿州御家来
月番

以上

一笠間藩の水府と雷同とどの地と牡丹餅とを
大混雑せる清家都と人心三区以上牡丹餅も両端ら不
ら近ら再清雷表、清也ら趣ら
一先ら水ら今ら迫来ら十ね人ら者ら書ら男
一つ雷元雷也節名ら在ら
一本みら駆ら二ら人貴ら
第一上杉藩ら両家ら等ら
ら清ら駆ら在ら
一ら報両両ら雷ら門
お経ら中ら三ら成ら
打ら婦人ら借ら家ら者ら雷仕
ら者両等ら後人ら
ら作ら表ら雷ら

巨細ら
解ら
一俗書振ら借方ら場
ら雷ら
清覚ら上ら

第四号

一来月三日清委ら下ら井伊掃部頭様ら
大変也ら中異報務方ら
ら用ら云ら
号ら迎ら
ね也ら報ら
ら雷ら
第一清ら報ら
雑ら

七月十七日御参詣ニ付
三浦八幡宮
名誉之事
大石おたつ
浅野千之助

カゝる
ミぬ
事
下山
倉
ミ
ミ
三ノ
ミ
つゝ
ハ

脇ニ而ハ浅野神ニ而ハ下山ニ而ハ
ミぬ先月廿日近ク
事ニ而ハ俄ニ清山ニ而ハ大風雨ニ而ハ
下山ニ而ハ二月廿日
倉ニ而ハ前月朔日横須
ミ
三ノ朔日ニ而ハ大風雨ニ而
ミ外浦通ニ弥ゝ外ニ渡れ
珍事ニ而ハ定而外ニ
ハ

右之通申渡候事也　神國之事也　仍如件

三月　　織田掃部頭

一八代洲川家領之義ニ付御用状　幷御書面之趣
委細承知奉畏候　尚追而書ヲ以可申進候
恐惶謹言

三月　　織田掃部頭
　　　　雄井摂津守

寒、餅

孫

三月　日

筆啓仕候　——中之奉賀上候
御書面之趣　御内意承知仕候　尚期後音之節
万端可申進候　——御申越之趣　御伝達
奉願上候

細川御内
陳田新蔵
吉田勇之丞

松平伊豆守殿
浅野内匠頭殿

蒲士演畫拔華

一松平大隅守殿御家中にて落花右旋動之事

大藩の風の如く上下帰心し人
伊予より到止る報ありて伊予紀州探索
をうけまず死罪申渡さるる血判連判死人に供し筆
をうばしめ到止るべく
一親和等之を聞き探索の為、横田内匠
上杉の勇人逃去り申候、横田下男と申し
一説供の童の記しおきたる
ありしを奪ひ取候由
大方如此切合之人だろう
一井伊家より探索として人
屋敷には五頭ばかり

一井伊家より白川具合伺ひ申に候人数申し陣笠
屋敷より出るを見つぐ具合伺ひ
引取る
一邸之騒動退散も
家斗りの如く取沙汰し下略

高野

二月二日雪降に付
此外横田内外探索大騒動
注進の書面にて水戸浪人二十七人在府引取
家より和歌の童を首領一統印形
書面一統印形の童ども

松平彦十郎様
山田浩五郎様
井上五三郎様

主深此等ノ帆トアメリカ船ニテ其内金三分ヲ引替仕度ニ
アメリカ船於テタメ停ノ帆ヲ少シ仕拙ニテ其ヒ人ニテ金ニテ買
代ノ銀銭ニ文ニテ済唐六ツ七分程ニ買ヒ受ニテ其ニ大ニ益ヲ不相止
事ニ…ヲ其ノ器物迄売払イ飢ヲ凌キシ由右銀銭ハ銀ニテハ
ニテ由誠ニ可笑ノ事ナリ先カミユ
○上田一七郎

正月十八日日本橋ヨリ通イ船ニ乗リ品川沖アメリカ船ホウ
ハタジニハツ時乗込即日ホウハタヒ横濱浦ヨリ出帆彼ノ地ニ
廿一日迄滞泊廿二日早朝彼ノ地出帆南ニ向安房ノ岬ヲ
一里程出テ大ヨイ船ノ頭ヲ巳寅ニ向ケ走ル事一両日ヲ経海
上浪高ク舟中三ケ二酔臥ス廿七日夕刻ヨリ南風烈ク

吹起リ波浪舟中ニ打込ミ川ノ如ク舟動揺二十四五度ニ
及ヒ舟所々破損シ壁外端ニ釣置処ノバツテイラ乙艘
落ス当舟ノ舟将モ已ニ十五年此職ヲ務ル難ニ逢シ事ニテ日
本人乗組初テノ事故酔臥セサルモノ稀ナリ舟中品物
九ヲ転スカ如シ兎角風不順逆風多ク数日送リシ内
石炭乏クク相成候故北アメリカ地サンフランシスコヲ指
乗ル処俄ニサンドイス島ニ向ケ舟頭ヲ南ニ向ケ走リ余
程ノ廻リ路ニ相成候ヘ共不得止事ト存シ彼ノ地ニ向ケ乞
日ニシテ彼ノ地ニ至リ二月十四日八ツ時ワアフ島ノ湊ニ碇ヲ
下ス即日上下七百人余不残上陸致シ旅籠ニ十九日迄宿
ス其内薪水石炭舟破損修覆ス サンドイス島 八島

合テ我九州境界ニ均シトス国王ノ市中ニ飲ス屋
鋪四千四面住國人色黒ニシテ人品卑シ此島唐ヶ丁
千今五十年十年前米人英人清人来テ商館ヲ開キ家
屋ノ作リ西洋ニ均シ石尾ヲ積テ壁トス美麗ナリ近方
人家八百軒余程種ニ智ヲ以ル草木多シ気候寒暖計
七十八度我五月中旬ニ覚フ「カボチヤ」「キウリ」「水瓜」熟ス卅
木上ニアリ花開ク者モアリ此國高山ヲ戴キ常ニ雲霧イ
雨降リ晴天稀ナリ極暑ノ節モ夕刻ヨリ催スト云
種ニ寄泊中ノ事ハ共帰府ヲ祈ル夫ヨリ復国ヒ
三月七日ヨリ已ニ山ヲ帆「サンフランシスコ」ニ舟頭ヲ向ケ吉ル
「サンフランシスコ」ニ三月九日着ス日本ヨリオンドイス迄凡過ク

路ヲ経テ落二千余里當地ニ五六日滞留致シ此帆「パナコシ
ニ行キ彼ノ地ヨリ上陸二十里行キ又舟ニ乗ジ米國ノ都
「ハシントン」ニ至ル行程半行ヲ過ル頃ヨリ世界一周ノ「レール」ヲ
ミカト治定不使家ヲ立ツニ際シ多人数帰雲ノ
お威ト云ヒ野生ノ至極ニシテ
無難ニ帰国ノ祝ヒ盃余里ニ
右先百「ヨコハマ」ニ船ノ便ニ頼ニ兄ヨリ「イリ人状ニ
ハ一行二般ノ内一般日本船ノ方ニ先帰帆ノ由是奇談ヲ
ク雲ノ如ニ打芸ヲ入リ「ヨコハマ」ニモ着時ニ水府
一条ヲ初メ清朝昨今ノ戦争和蘭國ノ開業余程面
白キ事ノ事ヲ共何ノ事ヲ共故ニ入ノ筆ニ追ニ記ス事ニ

行而に向マイリ人ハ日本出帆ヲ東に向ケ
マイリ人由帰帆ノ船ハ帰唐ノ什ヲ
外丁寧ノ馳走ニ逢ノ由種々寄渡不可数ノ
日ニ御家ニ帰着シ御服免ノ後ハ何ニ業ヲ
私母ヲアメリカ行達ヲ
三年外国ニ
渡ヲ
長ノ間ヲ
紀伊殿ニ
ヲ慥ニ
ニ
右ハ新聞紙ニ

[illegible]

一去月初旬比[illegible]
在[illegible]
雛[illegible]
[illegible]

一此[illegible]
戻[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一去ル[illegible]
[illegible]
横[illegible]
[illegible]
[illegible]

一日秋[illegible]
表門[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二而鉄砲之事ニ而ハ無之帯剱ニ而御逢被成候由之所
御諸人ニも御逢被成候右者[illegible]輪ハ[illegible]
道[illegible]御座候者ハ[illegible]浪人ニ而又合
性名ハ[illegible]ニても[illegible]人之名ハ[illegible]外ニ三十人
余迄ニ而[illegible]集来[illegible]集人[illegible]寝所[illegible]
説[illegible]事ニ[illegible]其外[illegible]月並時[illegible]
[illegible]

九月 [illegible]

聞書抜萃

細川公ハ只今迄[illegible]様御馬印[illegible]様井伊様御家来[illegible]
[illegible]首[illegible]
御首[illegible]全[illegible]首[illegible]

一 右浪人[illegible]水戸様御家来[illegible]
[illegible]二月[illegible]水戸[illegible]
[illegible]十日[illegible]

一 掃部頭様御家来[illegible]
[illegible]全水戸様御家来[illegible]
[illegible]御[illegible]水戸[illegible]
中[illegible]

一 掃部頭様御儀[illegible]上使[illegible]
[illegible]家中[illegible]使者

於是此由丈之事件余程御座候由ニ而御掃除公儀水
戸様御達し之上紀伊様御部屋ニ而井伊様ニ而御変事之節右之
様成候事ニ付案外之難事ニ而世評も有之候右之始末ニ付
恐入候

彦根公御供之者即死ニ而右家来者水戸浪人
名前ハ追而御届ケ可申上候由ニ御座候

右浪人之浪人ニ而水戸家来ニ而右之者掃部頭殿首ヲ
井伊掃部頭殿首を取帰り候者も有之候事
今日之処掃部頭殿首ハ本家ニ持参候由
敵討之由ニ而候得共右役人様方途中ニ而相改候由
之由何方ニも不知候得共右之者御届ケ有之候ニ付
右之者共追々御届ケ有之候得共其外之者ハ
当時右之者ハ相分り不申候由ニ御座候

御供之者共も思ひ〳〵ニ取押へ候得共首ヲ取られ候由
御老中方へ御届ケ有之候而右之者共掃部頭様御屋敷へ御届
此節之儀ニ付右御家来衆并ニ手負之者も有之
ニ而相改口書之儀ハ御免ニ相成候由
之世上騒動ニ而御大名様方御登城之節
一三月四日御触之通御旗本衆中登城之道
し往来之者通行差止候
一当月三日右三人之者途中ニ而切合ニ相成
右之者共御届ケ申上候由
通行之御面々ハ御心得可被成候
御屋敷ニ而ハ掃部頭殿御病気之趣ニ而
右ニ付公儀御沙汰之趣

○酒井左兵衛督　○松平越中守殿
三月廿五日ニ御参内被遊候ニ付
一御先供之儀左之通
右三月廿日御発駕ニ付
三月廿四日ニ御着
同廿五日御出ニ付
一井伊掃部頭殿家来ニ而
一松平伯耆守殿家来ニ而

右之通ニ付
水戸殿
一閏二月十九日ニ御発駕ニ付
右之通ニ付

一 [illegible]
一 [illegible]
一 紀州藩田辺の[illegible]
[illegible]
一 右之[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
[illegible]

一 紀州藩[illegible]
○ [illegible]
[illegible]
一 右捕[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十月廿日

〇 [illegible]
〇 [illegible]
〇 [illegible]

〆八九人ニ而御座候

一 三月七日井伊掃部頭様ゟ御使者酒井右京様衆所ニ罷出候而
両人網乗ゟ御引取ニ相成申候

一 御当所伴野ニ而弐万石井伊掃部頭様ゟ御預ケ被成候右場所ニ水戸様ゟ
御家風任ニ而御座候由被仰渡

一 御老中方浪人御手当御取締ニ付御差図被下候義ニ付御取締御吟味之義
右細川様ニ而御預ケニ相成候ニ付御達之由

同氏掃部頭殿登城之途中浪人体之者ゟ切殺被成候由　三月三日

○井伊直弼
名代
○稲垣志摩守
○三浦佐守

安藤之者共今防戦ニ而相働候得共ニ付御月番老中
右之内右様騒動之者共ハ水戸家来之者共ニ付伏見屋之助ヲ下
候得共之者之掃部頭殿御首ヲ取候処途中上首級を携へ罷越
其時右之所持之品所持之面々吟味之上を候間右之段
仕候ニ付右死骸之儀ニ付御達ニ相成候書付ハ右之通御座候上便ニ而
掃部頭殿御自身ニ御命ニ被成候ニ付御差控之儀被仰付候
家之者有之地面ニ而
　　役
　　後役
大阻之御取締之上後役
御吟味之上掃部頭殿御家来
右之者共ニ御座候
上知被仰付候三十五万石之内
石高之内
石見国之内
被仰付候

水戸宰相殿

松平相模守　　因州

松平阿波守

松平遠江守　　相州

酒井左衛門　　酒井

服部越前守　　播州

松平備後守　　備州

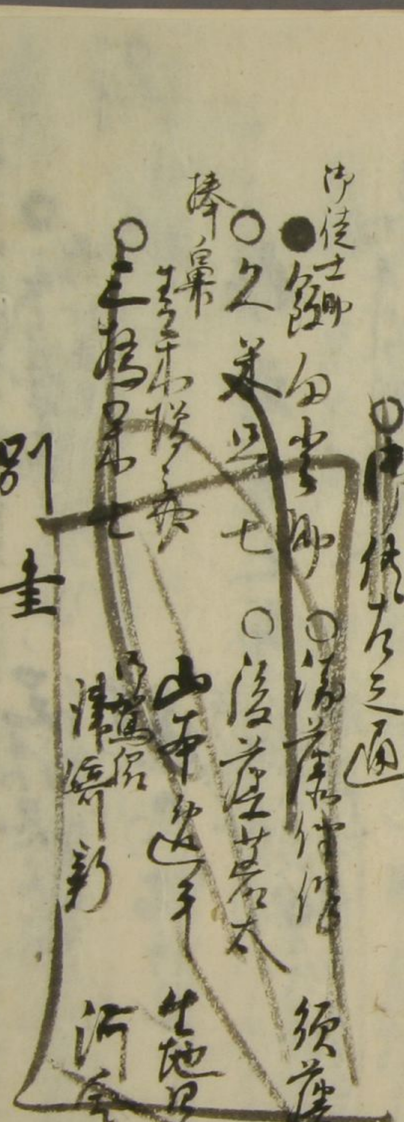
一首ハ遠江守

○薩州浪人ニ而有村治左衛門と申者廿二才ニて御首を掛ケ江ニ持之処
此者ハ伊井家の士小河原秀之丞と申者首を取返し候處脇ゟ打
掛ケ候ニ付自殺致し候由 木ニ脇坂中務殿ゟ但馬守
へ送り越ニ而遠藤と申所辻番所ニ而公儀の役人へ相渡
此者首ハ宅ニ而検使之上 伊井家へ相渡ス

○翌朝同家役人共田付拾之助

○井伊家ハ防之備ニ而立出ル處一向ニ手配不行届ニ付
当日者近習共ハ別ニ後ゟ参り候ニ付間ニ合不申
○井伊家ハ雪中之事故士三人死去致ス右之外手疵一統之者共
○井伊家の者共ハ夫ゟ屋敷へ引取候
○井伊家ゟ駕籠ニ而出ル外ニ手負之者ハ屋敷へ引取候
○当日井伊家之家老共ハ屋敷ニ而首を相渡シ候ニ付金七十両之事御

きゝ申
ものも出来不申候
○合羽ニ而竜之口より参り候由出御
○右者公儀役人共へ申立ル
○同日井伊家之者共ハ此者ニ而公儀ゟ引渡ニ相成
右之者共ハ即死之人数ニ而御座候
○両者之内若者三人ニ而此上月首を持参り候
○浪人之吟味ニ付候者ハ御尋之上御引渡ニ相成
其外ニ御召捕ニ相成候人数
○此者共ハ上屋敷ニ而大目付へ引渡し
人之上ニ而右之者共ハ宅へ御預ケ之事
此段ハ三日之内ニ而今月迄之内之難儀之事
委細之儀ハ不申候
おゝ申ニ而右之者共ハ元禄之事之大名之
此者首を打落し申候外ニ水戸浪人七十
八百人之中ニ而御座候之由



○佐野帯之助

○大関和之助

○森平右衛門

○奥田孫太夫

○村松三太夫

○間瀬久太夫

○小野寺十内

○吉田忠左衛門

○矢頭右衛門七

○片岡源五右衛門

○間喜兵衛

○原惣右衛門

○茅野和助

○岡島八十右衛門

○堀部弥兵衛

○横川勘平

○倉橋伝助

○富森助右衛門

○早水藤左衛門

○村上庄左衛門

○奥野将監

○中村清右衛門

○潮田又之丞

○間新六

○小野寺幸右衛門

○武林唯七

○木村岡右衛門

○千馬三郎兵衛

○杉野十平次

○前原伊助

○貝賀弥左衛門

○岡野金右衛門

○菅谷半之丞

○勝田新左衛門

○不破数右衛門

○村松喜兵衛

○間瀬孫九郎

○中村勘助

○吉田沢右衛門

○富森正因

○近松勘六

○矢田五郎右衛門

○大高源五

○神崎与五郎

○磯貝十郎左衛門

○間十次郎

○奥田貞右衛門

○吉田忠右衛門

○小野寺十内

○森平右衛門

○大関和之助

○佐野帯之助